

# THE KOBECOCO10

OCTOBER 1979 NO. 222 神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第3種郵便物認可  
昭和54年10月1日印刷 通巻222号  
昭和54年9月1日発行 毎月1回1日発行





 BENIYA

深みゆく紅色に  
ひるがえ  
美しさよ翻れ！

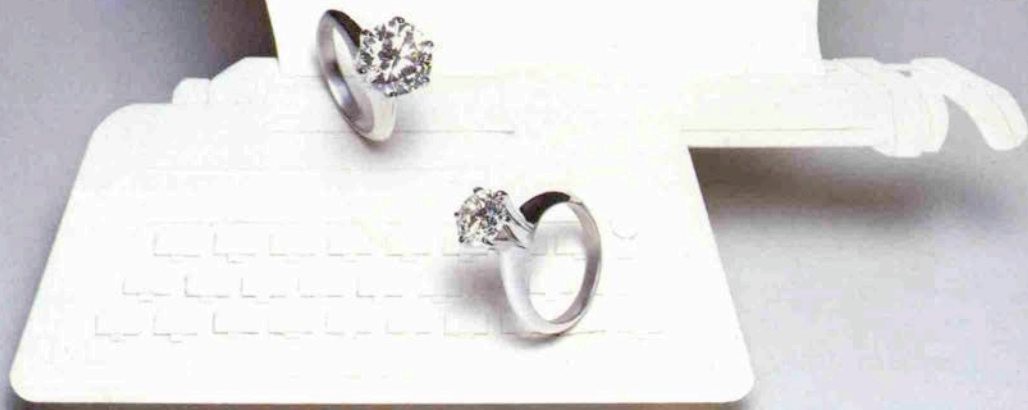
アウトナウな季節の異邦の薫りが  
こぼれんばかりの色と柄。  
いまはもう、秋たけなわの《ベニヤ》です。  
すきとおった陽ざしのなかで、色づく  
街で、それこそあなたを優雅に翻す、  
さわやかなオータムファッション。  
エトランゼみたいにしなやかに、アダ  
ルトの気品をただよわせます。

LADIES SHOP  
*Beniya*  
the ladies fashion of the four seasons. creative beniya

世界の宝石店  
MIKIMOTO

晴れて、薬指にかがやきました。

人の出逢いは、不思議なもの。  
夏のバカンスがとりもつ縁で、あっという間に  
ゴールイン。そんなケース、あなたの回りにも案外  
いらっしゃるのでは、ありませんか。実は、ここにも  
ラッキーな娘がひとり。街が枯葉で深まり  
始めた頃、さり気なくダイヤモンドが、かがやきました。  
すこしの迷いもなく、愛に向かって旅立つあなたに、  
ミキモトも、心から祝福を贈ります。







豊かさが影を伸ばす。ふとすれ違った女性の不思議な微笑の残照——。

## '79-'80世界のFUR COLLECTION

10月11日〈水〉—16日〈火〉

さんちか広場にて AM10:00~PM7:30

主な展示品 / ヨーロッパ、ニューヨーク、カナダ、パロディ(木下物産)のものを中心にこの冬のトップファッションが勢揃いします。セーブ、チンチラ、ミンク、レオパード、オセロット、スワカラ、フォックス、ラグーン、リス、タイガー、バーバリーコート(ファーライナー)

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

**ムラタ**

さんちかレディスタウン  
(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎(078) 391-3886

本社

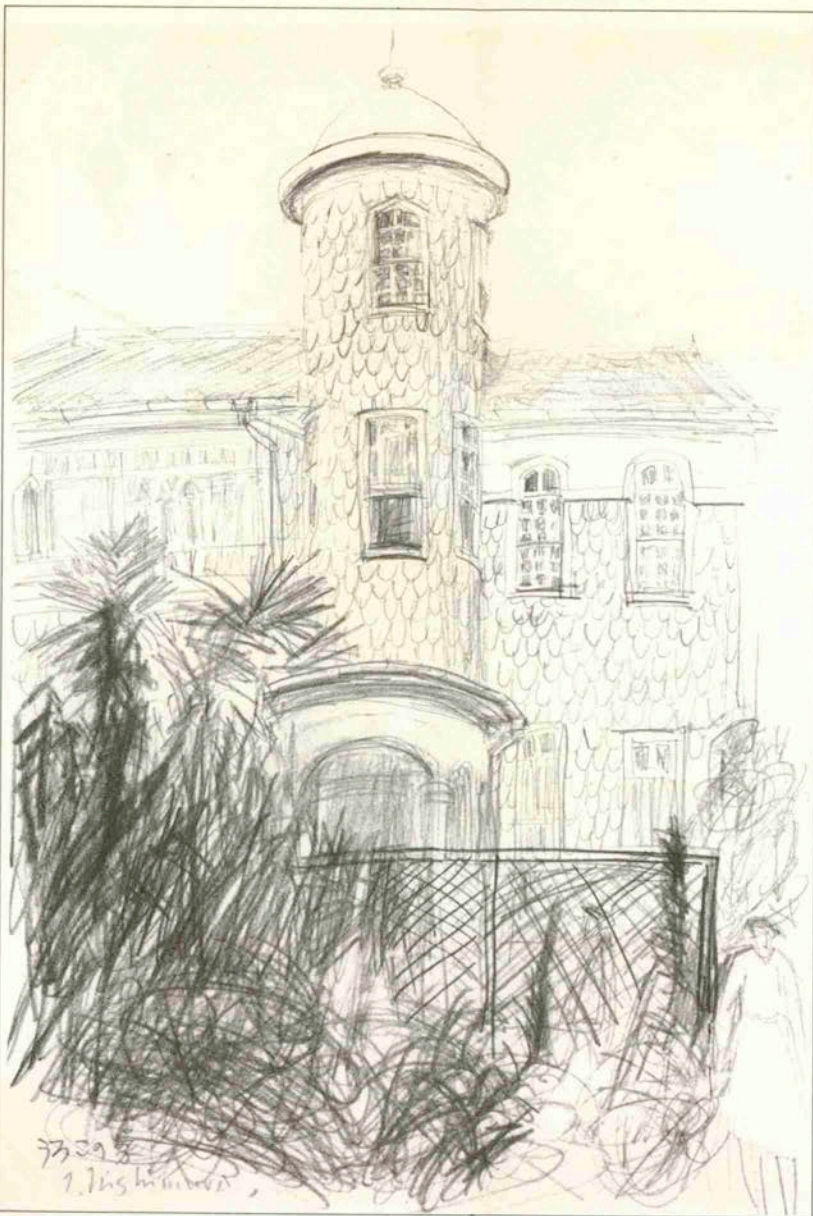
(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)

☎(078) 341-8041

スケッチブックから

# ● 僕の見た神戸

〈10〉 うろこの家



絵・西村 功



伝 相 一 家 夙

天 麩 羅

神戸割烹



お 可 川

〒650 神戸市生田区北野町1丁目115-2 ☎神戸(078)222-3511(代)





白金台ルビーダイヤリング

枯葉色の

乾いたリズムに乗って

時はしのび足で

白い季節へと移ろいゆく。

モノトーンの世界に

咲く名花は

ルビー  
紅玉色の花弁を

いま 咲かせる

永い眠りから醒めたように。

... 宝飾店  
*Tajima*  
タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表

タジマでは宝石の鑑定を無料でご相談に  
応じておりますのでお気軽にご利用下さい  
定休日は水曜日です



# デザインと素材の調和が素敵

小林孝子

（神戸ドレスメーカー学院で  
学院教師）  
後藤 孝

ハキハキした話しぶりから爽やかな印象を受ける。神戸ドレスメーカー学院でスタイル画を教える傍ら応募した一点が、見事コウベ・ファッションデザインコンテスト'79で「神戸ハイファッション大賞」を射止めた。作品はワンピースとヘチマカラーのジャケットの組み合わせだが、このワンピースが素晴らしい。ワインカラーで素材はミックスベロアという角度によって色の濃淡をかもし出す光沢のある化学繊維で、身体に巻きつけたようなドレープの多いデザインとうまく調和している。手の込んだオートクチュールっぽいドレスは、控え目な感じの大人の女性"をイメージに作った。中学、高校時代はスポーツに没頭、体育の教師が小さい頃から好きだった服飾か、で実用的な方を選択した。明石短大の服飾科を卒業の後、神戸ドレメのデザイナー科・プロフェッショナルコースと進み母校で教鞭を取っている。福岡院長も「良いデザインだし、アイディアがよく表現できていて、よく、こなされた本格的な服です。意欲的な人だから今後も頑張ってくれることでしょう」と期待を寄せている。

「十月十八日から神戸大丸で短大と学院の合同展があるので製作中です。ぜひ見に来て下さい」と学院のPR。  
目下、婚約中で、結婚後も本格的デザイナーを目指す。姫路市在住。

（神戸ドレメの教室で）





▶ インド ◀

Yasmini Fulchand Karani 13才(右)

Pallavi Fulchand karani 10才(左)

おきての厳しいヒンズー教の中でも最も厳しい一派に属しているカラニ家は、厳格な菜食主義者である。肉類は鶏肉も食べないし卵もダメ、だそう。

ステラマリスに通っているこの二人のお弁当はサンドイッチ(バターと辛子にトマト、キュウリの野菜類、チーズ)やビザバイ。チャパティ(インド風のおせんべい)を持っていくこともある。何が好き?と聞くとスパゲティとカレーうどんと口をそろえて答えてくれた。

ヤスミニちゃん、パラヴィちゃんの美女姉妹は日本生まれ。休暇に時々ボンベイの親類へ遊びに行く。このサリーもこないだインドでパパが買ってきたの。インド人特有のちょっとシャイでおませな二人です。北野明在住。



秋の行楽に最適ノサンドイッチ

須磨・神戸・元町・六甲道・新神戸駅

お弁当の **淡路屋**

〒650 神戸市生田区相生町2

☎(078) 351-1682



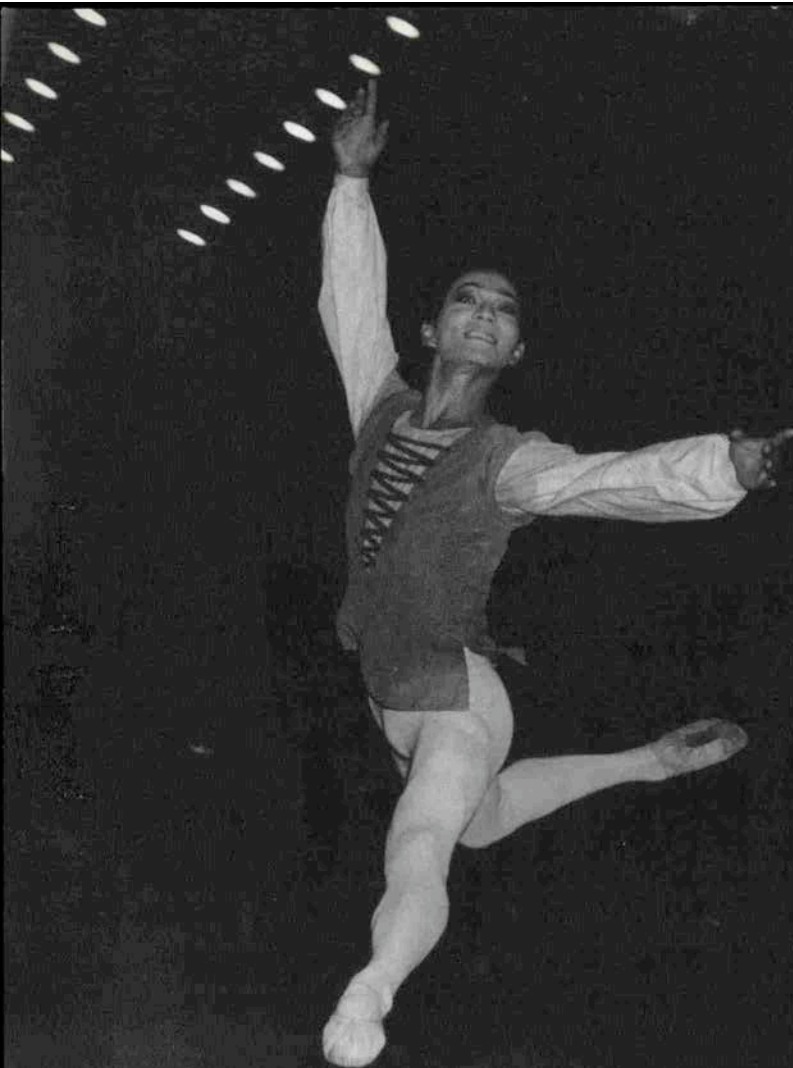
# 踊ることが生き甲斐

溝下司郎

（東京バレエ団ダンサー）カメラ／米田定蔵

「踊ることが好きで好きで、三度のめしより好き。」と云いきって眼を輝やかせる溝下司郎さん（29才）は、東京バレエ団のソロダンサー。ソ連のポリシヨイ劇場で「かぐや姫」の太郎、「タムタム」眠れる森の美女」のブルーバードなどを踊り日本人では初めての舞台出演を見事にこなし、ヨーロッパも公演、大成功を収めてこの七月に帰国。十月二十六日には神戸国際会館で帰国全国巡演を民音の舞台で披露する。神戸の垂水生れ、須佐野中学から大和田高校へ。高校一年の彼は、今岡頌子舞踊団にモダンダンスを習おうと入門。何しろ踊りたかったのだ。先輩の友人佐藤勇次さんと共に上京、クラシックバレエの一から再出発。十年前に東京バレエ団の一員となり、眼を見張る成長を遂げた。

先輩北原秀晃を想わずあの美しいパネのきいたジャンプ。楽しませる踊りぶりは定評がある。「憧れのポリシヨイで日本人で初めて踊った時、神戸の人間としてはほこりを持って出演しました。これからは外国へ出て色んな振付師に出逢いたい。ばく一番好きな神戸で《かぐや姫》の太郎を踊るのが楽しみだし幸せ、ぜひ観て下さい」と人馴っこい人柄とエネルギーなバイタリテイがのぞく。最近、今岡頌子門下生の神戸っ娘と結婚したところ。楽しみな神戸の舞台だ。在東京。（神戸文化大ホールにて）





# 出会いの秋

素敵なあなたと北野町で  
同窓会・誕生会・披露宴などお祝いのパーティーに



## Kitano Club

レストラン ナイトクラブ  
**北野 クラブ**

神戸市生田区北野町1-64 ☎ (078) 231-2251



年中無休駐車場有

restaurant  
**Blanc de Blanc**

レストラン フランドゥ・ブラン 神戸

神戸市生田区京町77-1 神栄ビル7F ☎ (078) 321-1455

# 地車に魅せられる 祭り好きの男性群

秋祭りが各地で始まった。ピーヒャラ、ピーヒャラ囃子に合わせて、ねじり鉢巻にはっぴ姿の若者が威勢よく地車を担いで町中を練り歩く様子は、日本ならではの祭り風景といえる。

その地車、現在は保存されている数も減ったが、華麗な彫刻がほどこされ色彩も鮮かに、提燈をぶら下げた様子は伝統に培われた味わい深い風格がある。



そんな地車の魅力にとりつかれた人達が、東灘、芦屋を中心に集まって研究会を発足させたのが三年前。会員は二十二名で、会長の豊田氏のように建築士という仕事柄、構造に興味をもって地車の精密な縮尺図を描いたり、あちこちの地車の写真を撮る人、囃子の音色を録音する人、地車の彫刻に関心を寄せる人、ひたすら祭りが好きな人等動機は様々だが、ともかく熱心に各地の地車が出る祭りを見学に行き、地元

の祭りにはもちろん自ら担いで楽しむ。近畿一円の地車分布図と祭り日を記した表も作られ、ユニークな活動が続く。

（合わせて34頁も「舞」ください）



10月・深まる秋  
nick

優しさの扉 開ければ…

KOBE フラワーロード「仏蘭西屋」

心の通う店創り

**nick**  
KOBE NAGOYA TOKYO

神戸日建

営業品目:商業施設全般 調査企画・店舗装備 設計施工

本社(設計室) 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20

PHONE (078) 252-1321

神戸事業部 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20

PHONE (078) 251-3525(代)

名古屋事業部 名古屋市西区牛島町5-5

PHONE (052) 561-3618

東京事業部 東京都中央区日本橋3丁目2-17

PHONE (03) 278-1369







坂井知事、宮崎市長、中内ダイエー社長らによってテープカット

## グレイスコウベ オープン

●コウベスナップ

## KOBE FASHION SHOW'79

三宮センター街に、9階建て商業ビル「グレイス・コウベ」が、去る9月1日オープン。ファッション関係の店舗とダイエーの総合スポーツ店「スポーツワールド33」で構成され、来年度着工予定の西地区を残して、センター街の改造計画はほぼ完了したことになる。

9月8日、ファッションフェアの幕開けに開かれたShow'79。デザインコンテスト入賞作品、KFA加盟35社による秋冬物コレクションに、播州織コレクション、真珠のデザインコンテスト優秀作品も加わり、華やかな神戸ファッションのステージになった。



神戸ハイファッション賞小林孝子さんの作品



ロングドレスで華やかなフィナーレ



きのした かずよ  
京都市立美術大学西洋画科卒業  
国際青年美術家展  
現代日本美術展（兵庫県立近代美術館賞）  
アート・ナウ78展  
日本国際美術展  
エンバ賞美術展  
その他個展、グループ展等。神戸生まれ

# イメージの神戸

〈31〉木下佳通代

（美術家）

たとえば、過去現在未来とは、社会とか歴史等々に於ての便宜上の言葉ですから、本当のところはいつも「今」がえんえんと続いている訳です。私にとつての神戸には、生まれてからのとぎれとぎれに始まる最も古い記憶の「時」から現在の「時」までの、私のほとんどの連続した「今」があります。（勿論、その「今」はたまに海を越えた所であつたり、神戸から遠く離れた乗物の中であつたりもしますが）ですから、その「今」は常に神戸の何処かの情景の中にあり、又その情景は私の血肉になっているかのように、そして私の身体から意識だけが浮遊してそこ此処に漂うように、鮮かに或はおぼろげに見えたりします。それはまだ私が幼かつた頃の、真黒な大きな生き物のような深夜の海であつたり、山から遠くかすんでみえる港の沖合い、朝靄の中から光に洗われてみえる山々、虫の音や木の葉のゆれる音だけが聞こえる山合いの小道、色とりどりのネオンと人々のうごめく夜の街、等々……。すべてがすぐそこに身近にあるような地形だからかもしれない。神戸を選んで生まれたのでもなく、特に神戸で死にたいと思うのでもないのですが、今の「今」も、ずっと前の「今」も混沌としてあるような神戸の地が私を占めています。でもそれも時として、丁度この夏の初め物干し台の上のハイビスカスの葉に咲いた優曇華の花のようにかすかに消え去ることがあつてもいいのです。



